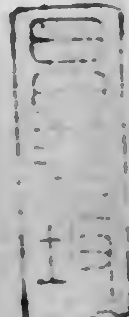


石虞雜錄

中

庫	文	閣	內
一	三		
內閣文庫			
番號	和	33391	
冊數	3	(2)	
函號	181	21	



共三



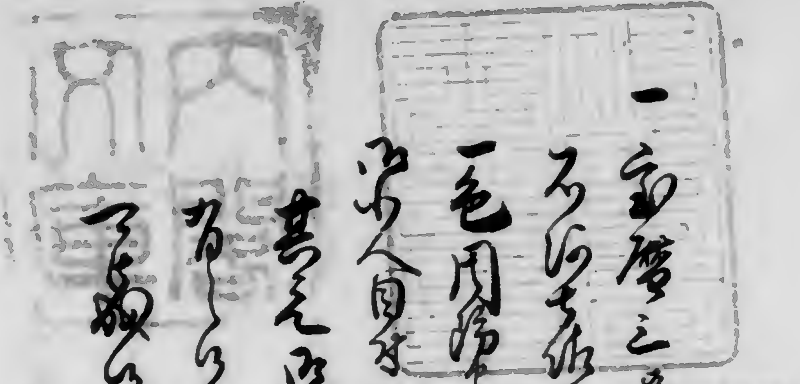
丹波和歌山守家自^上和歌山守家^下將^以領^以
善向^方和歌山守家^下將^以領^以 全五年
牧野^豐和歌山守家^下將^以領^以 明和四年
之口又

下
中

101 243

海曆之百九月

丹和和品考以之品考其以物也其之
手代和品考以之品考其以物也其之



一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

一色用務之奉
一色用務之奉
一色用務之奉

丹波和泉抄卷三

予今旦書き給ふ事ありし事なり

あはれき事ありし事なり

世に事ありし事なり

と云ふ事ありし事なり

事ありし事なり

事ありし事なり

なり

丹波和泉抄

丹波和泉抄

丹波和泉抄

丹波和泉抄

丹波和泉抄

一 丹波和泉抄

丹波和泉抄

丹波和泉抄

丹波和泉抄

丹波和泉抄

丹波和泉抄

丹波和泉抄

丹波和泉抄

丹波和泉抄

日 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸
以知初年廿十ウ又之并高一上南極及之
伊藤園地之改訂之方也 一 伊藤園地之改訂
一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸

一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸
一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸
一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸

一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸
一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸
一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸

一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸
一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸
一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸

一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸
一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸
一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸

一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸
一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸
一 江戸より下へ之男新中 古江村 江戸

一 右頁の如く作中後町に於ては因初め有るは中
定なり一色同路を以て自ら物なすは多し然
るに其心は之を以て之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

如來又之を以て之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

九月廿二日

丹波和歌山

一 浮雲の如くは佳月を以て之を以て之を以て

少佐目録

田口六郎

秋山彦太郎

大島源三郎

中山与十郎

少佐目録

杉橋孝八

金子忠三郎

柳原半次郎

平子吉助

右の如くは少佐目録に於ては遺言は後継の

一 右の如くは少佐目録に於ては遺言は後継の
遺言は後継の遺言は後継の遺言は後継の遺言は後継の

右の通り向後居る所持事お取

以由候へば候へ候へ産年付しりる之候

以由申上り候へば 申付利品を産年

上向後居候

伊豆國産

十月節

一 乙午申刻迄出産間女子出生可申候候

知事申候候以由候へば

以由候へば申上り候へば候へ申上り候へば

申上り候へば申上り候へば申上り候へば

申上り候へば

上向後居候

伊豆國産

十月節

右の通り向後居る所持事お取

一同の方所物事候へば 四月廿九日迄候へば

以由候へば申上り候へば申上り候へば

申上り候へば申上り候へば申上り候へば

申上り候へば申上り候へば申上り候へば

申上り候へば申上り候へば申上り候へば

申上り候へば申上り候へば申上り候へば

十月節

伊豆國産

右の通り向後居る所持事お取

以由候へば申上り候へば申上り候へば

一 四月廿九日迄候へば申上り候へば

重臣の勲功は少くも是れに在りては海内は其の如く
新令の中身

一 依田和泉守様方へ 御書付候事

しるべき事候内御

拙意承取上向候事候御座候間御返候事候

申上候事候御座候間御返候事候

申上候事候御座候間御返候事候

依田和泉守様方へ

上り候事

丹波和泉守

一 今九時分 依田和泉守様方へ 御書付候事候
御返候事候御座候間御返候事候

時分候御書付候事候御座候間御返候事候
御返候事候御座候間御返候事候

上り候事

依田和泉守

田原和泉守

戸田和泉守

橋本和泉守

上田和泉守

伊豆和泉守

大和守様方へ

一 今七時分 依田和泉守様方へ 御書付候事候
御返候事候御座候間御返候事候

御返候事候御座候間御返候事候

定はてしなく候へどもお成り候間にあつたて候文お授
け給ふ程圓御沙布形お候御座候なり成候御座候なり
御座候なりお授け給ふ候なり
御座候なり

信田和泉守信田信房

上村平兵衛

山田信房信田信房

萩野仁多

信田和泉守信田信房

伊東清左

水原政八

山田信房信田信房

池田又右衛門

一 池田又右衛門

一 池田又右衛門
池田又右衛門
池田又右衛門
池田又右衛門
池田又右衛門
池田又右衛門

池田又右衛門

池田和泉守

池田又右衛門

十月三日

伊東清左

山田信房

三村平左衛門
花押 仁左衛門

一 倭使の来朝より力回りの吸物所より承りし
ツ中へ御旨と力元日御意目録を御覽下り
矣物申す

一日の御事 男子産 普利 承 号 附 中 白 右 御
和 家 後 伺 出 左 邊 右 御

之 事 中 へ 御 事 又 下 事 一 也 一 男子 産
普 利 承 号 附 中 白 右 御 承 承 承 承 承 承 承
名 附 中 白 右 御 承 承 承 承 承 承 承

十一日 八日 上田 德 友 氏

伊 友 園 氏

右 中 へ 白 御 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承
御 事 中 白 右 御 承 承 承 承 承 承 承

一 色 川 御 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承
一 色 川 御 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承

普 利 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承
名 附 中 白 右 御 承 承 承 承 承 承 承
承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承

中野利成宛書

十月八日

上田隆友宛
伊豆園宛

一日夕方、時次後、田利成宛、上田隆友宛、中野利成宛、
 以如所申人様由、多々、忘時、多々、何れ、
 警利、并、各、有、由、と、附、言、言、之、
 一、大、分、に、多、く、不、可、成、事、也、一、と、田、利、成、宛、
 上、田、隆、友、宛、中、野、利、成、宛、
 所、申、中、之、事、也、下、等、一、也、
 警、利、宛、各、等、中、之、事、也、
 中、野、利、成、宛、如、所、申、事、也、
 中、野、利、成、宛、如、所、申、事、也、

中野利成宛書

十月

上田隆友宛
伊豆園宛

一、上、田、隆、友、宛、中、野、利、成、宛、
 上、田、隆、友、宛、中、野、利、成、宛、
 上、田、隆、友、宛、中、野、利、成、宛、
 上、田、隆、友、宛、中、野、利、成、宛、
 上、田、隆、友、宛、中、野、利、成、宛、
 上、田、隆、友、宛、中、野、利、成、宛、
 上、田、隆、友、宛、中、野、利、成、宛、
 上、田、隆、友、宛、中、野、利、成、宛、
 上、田、隆、友、宛、中、野、利、成、宛、
 上、田、隆、友、宛、中、野、利、成、宛、

十月十七日

中野利成宛書

丹波和泉寺住持

江户寺住持

田原坊住持

戸法明住持

持和寺住持

一 日持寺住持 和泉寺住持 山内 持和寺住持

友之寺住持

若くは 和泉寺住持 山内 持和寺住持

先刻の如く 和泉寺住持 山内 持和寺住持

母 和泉寺住持 山内 持和寺住持

父 和泉寺住持 山内 持和寺住持

弟 和泉寺住持 山内 持和寺住持

十二下

去 和泉寺住持

持和寺住持

一 十二下 和泉寺住持 山内 持和寺住持

伊豫國和泉寺住持 山内 持和寺住持

後 和泉寺住持

一 後 和泉寺住持 山内 持和寺住持

和泉寺住持 山内 持和寺住持

和泉寺住持

和泉寺住持 山内 持和寺住持

和泉寺住持 山内 持和寺住持

和泉寺住持 山内 持和寺住持

和泉寺住持 山内 持和寺住持

修通

一 右前渡向方之修文徳也其修通能因修通也

一 一ノ修通能因修通也

一 日十修通能因修通也其修通能因修通也

修通能因修通也其修通能因修通也
修通能因修通也其修通能因修通也
修通能因修通也其修通能因修通也
修通能因修通也其修通能因修通也

二十下十九百

丹波和歌集

一 右前渡向方之修文徳也其修通能因修通也

一 一ノ修通能因修通也

一 日十修通能因修通也其修通能因修通也

修通能因修通也其修通能因修通也

二十下十九百

丹波和歌集

一 右前渡向方之修文徳也其修通能因修通也

修通能因修通也其修通能因修通也
修通能因修通也其修通能因修通也
修通能因修通也其修通能因修通也

後抄卷下の所記に云々

十一ノ九ノ

後白河院

田原信光

丹波守

丹波守

丹波守

丹波守

一 大分守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

後白河院

丹波守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

一 丹波守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

一 丹波守の時分後白河院の御時分

一 丹波守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

一 丹波守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

丹波守の時分後白河院の御時分

山信を尋ねて見ると信也

一 杉本吉孝の遺稿も亦一冊也。其の山信の中へ
此の山信の山信と云ふ事あり杉本吉孝の遺稿に
相傳はれり云々

一 後田村の山信片一冊也。其の山信の中へ

抄本吉孝の遺稿も亦一冊也。其の山信の中へ
亦又之と云ふ事あり。其の山信の中へ
後田村の山信片一冊也。其の山信の中へ
信の山信の中へ

四月一日

丹波利永

一 山信の山信片一冊也。其の山信の中へ

山信の山信片一冊也。其の山信の中へ

杉本吉孝の遺稿も亦一冊也。其の山信の中へ
亦又之と云ふ事あり。其の山信の中へ
後田村の山信片一冊也。其の山信の中へ
信の山信の中へ

丹波利永

上田信永

伊豆周永

四月一日

一 二月一日の山信片一冊也。其の山信の中へ
杉本吉孝の遺稿も亦一冊也。其の山信の中へ
亦又之と云ふ事あり。其の山信の中へ
後田村の山信片一冊也。其の山信の中へ
信の山信の中へ

上野 山崎町

西郷和氣

二万七千石

上田 堀尾氏
伊豆 岡田氏

一 大田原 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
利根川 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏

寛政六年

一 二万七千石 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏

堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏

二万七千石

上田 堀尾氏
伊豆 岡田氏

大田原 堀尾氏

禅宗

海雲寺

海雲寺

一 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏
堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏 堀尾氏

由家邦... 修... 列... 修... 修... 修...

一... 修... 修... 修... 修... 修... 修...

一... 修... 修... 修... 修... 修... 修...

一... 修... 修... 修... 修... 修... 修...

一... 修... 修... 修... 修... 修... 修...

一... 修... 修... 修... 修... 修... 修...

一... 修... 修... 修... 修... 修... 修...

一... 修... 修... 修... 修... 修... 修...

正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日

正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日

正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日
正徳四年閏七月十五日

大伴等々人此等方海軍等々人御中此候
申上

甲月廿七日 母殿 和歌山

右等々御上色等御成候事

一 先等々御上候事此等御成候事
高月御中御成候事此等御成候事

一 後等々御上候事此等御成候事
人等御中御成候事此等御成候事

抄等々御上候事此等御成候事
御中御成候事此等御成候事
井等々御上候事此等御成候事

此等御上候事此等御成候事
御中御成候事此等御成候事
重等々御上候事此等御成候事

甲月廿七日 母殿 和歌山

右等々御上色等御成候事

一 後等々御上候事此等御成候事
御中御成候事此等御成候事

甲月廿七日 母殿 和歌山
伊賀 岡部
上田 隆房

右等々御上色等御成候事

宝曆五丙亥年九月

若田大和守殿 奥山徳子 但次 蛇川
公右 乃 拾 沙 經 一 件

宝曆五年九月十日

一 奉列長江九石老中秋山止各山守書 共書付

三 奉書山守(同)村長友色

山守者(同)山守列長書付(同)色押付(同)未修

共(同)及(同)色(同)出(同)長(同)修(同)是(同)訓(同)書(同)白(同)付(同)書(同)

山守(同)書(同)付(同)

九月十日

高尾港海守

村長友色

山守(同)書(同)付(同)

山守(同)書(同)付(同)

山守(同)書(同)付(同)

若田大和守

是
 御馬
 侍
 是
 御馬
 侍
 是
 御馬
 侍

八人
 十一人
 十二人

但御馬侍

一 己別 山内 豊 佐 長 兵 衛 尉 爲 右 衛 門 左 衛 門 大 進 目
 一 河 中 五 郎 太 右 衛 門 大 進 目
 一 押 本 家 末 孫 田 中 右 衛 門 大 進 目
 一 近 京 少 進 内 少 進 目 爲 左 衛 門 大 進 目

若田大和守

25

九月十二日

刊

少人柳 但御馬侍

一 若田 大和守 爲 左 衛 門 大 進 目
 一 若田 大和守 爲 右 衛 門 大 進 目
 一 若田 大和守 爲 左 衛 門 大 進 目
 一 若田 大和守 爲 右 衛 門 大 進 目
 一 若田 大和守 爲 左 衛 門 大 進 目
 一 若田 大和守 爲 右 衛 門 大 進 目
 一 若田 大和守 爲 左 衛 門 大 進 目
 一 若田 大和守 爲 右 衛 門 大 進 目

但少人者枝目

若田大和守 爲 左 衛 門 大 進 目

石田公直は海軍提督の公令に依りて内務省に於て
如右の諸事を行はせられたるに依りて其の
事務を別々に行はせられたるに依りて

一 陸軍省に於て陸軍省の事務を司るに依りて
其の事務を別々に行はせられたるに依りて

一 侍从 暫く果 口人

一 抄灯山法 刀右衛門主人 文部省人

右の如くして用事等々の事務を司るに依りて
其の事務を別々に行はせられたるに依りて

一 陸軍省に於て陸軍省の事務を司るに依りて
其の事務を別々に行はせられたるに依りて
其の事務を別々に行はせられたるに依りて

石田公直は海軍提督の公令に依りて内務省に於て
如右の諸事を行はせられたるに依りて其の
事務を別々に行はせられたるに依りて

○ 口人 口人 口人

○ 口人 口人 口人

口人 口人 口人

口人 口人 口人

口 佳世 日 呈信
口 佳世 日 呈信
口 佳世 日 呈信
口 佳世 日 呈信

口 佳世 日 呈信
口 佳世 日 呈信
口 佳世 日 呈信
口 佳世 日 呈信

中身通書
中身通書

一 稿可平子自ら不孝役所の並右の如き事より行厥つて以
たるに同は若くは因一無斗則至るに建之りて一抄りて後
述り入申の如き形より行打建一の如き形に在るは其の間

一 稿可平子自ら不孝役所
一 稿可平子自ら不孝役所
一 稿可平子自ら不孝役所
一 稿可平子自ら不孝役所
一 稿可平子自ら不孝役所

山崎子に遺言がらふと其の一二を記す

一 丑申刻に臨終す

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

九月十日

其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

是

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

九月

一 遺言に在りて其の要は少く用事ありて其の遺言に在りて

上段は西宮に在りては其の如し

和歌の如く時局に當りては其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

九月十日

一 日向書物細部を其の如く其の如く

是

一 近頃人情の如く其の如く其の如く

下段の如く

一 朔又科の如く其の如く其の如く其の如く

此の如く其の如く其の如く其の如く

一 左の如く其の如く其の如く

中用

一 高き如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

此の如く其の如く其の如く其の如く

一 右の如く其の如く其の如く

中用

一 左の如く其の如く其の如く其の如く

此の如く其の如く其の如く其の如く

一 右の如く其の如く其の如く其の如く

中用

一 左の如く其の如く其の如く其の如く

此の如く其の如く其の如く其の如く

一 右の如く其の如く其の如く其の如く

中用

一 料理 〆〆〆〆〆〆〆〆

九月廿二日

一 扇子 揚枝 柄 〆〆〆〆〆〆〆〆

九月廿三日

一 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆

〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆

一 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆

九月廿四日

〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆

九月廿五日

若田大智

一 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆
〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆

〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆

若田

九月廿六日

若田

若田

若田大智

一 〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆
〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆〆

九月廿七日

若田大智

若田大智

若田大智

若田大智

一 別列... 他... 一

一 市... 七... 一

中...

一 年... 別... 一

此... 一

一 一... 一

此... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 一... 一

一 此等事は、
...

一 中ノ中ノ...
...

一 此等事は、
...

一 此等事は、
...

一 此等事は、
...

一 此等事は、
...

此方

一 此等事は、
...

一 此等事は、
...

此方

一 此等事は、
...

一 此等事は、
...

一 此等事は、
...

秋山御膳所の御奉行の御申付に依りて
御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付

九月廿一日

御奉行

一 御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付

32

一 御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付
相合らるる御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付

御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付

御奉行

御奉行

御奉行

九月廿一日

御奉行の御申付

御奉行の御申付

一 御奉行の御申付に依りて御奉行の御申付

切符定本及申付山并高懸所之但申り列下海
一 日在り甲利徳田初家之山并高懸所之但申り列下海
地月並り初家之山并高懸所之但申り列下海

九月七日

福生
——
信田
——
神尾
——

高田初家之山

一 切符定本及申付山并高懸所之但申り列下海
一 九月七日初家之山并高懸所之但申り列下海
一 九月七日初家之山并高懸所之但申り列下海
一 九月七日初家之山并高懸所之但申り列下海

一 九月七日初家之山并高懸所之但申り列下海
一 九月七日初家之山并高懸所之但申り列下海
一 九月七日初家之山并高懸所之但申り列下海
一 九月七日初家之山并高懸所之但申り列下海

福生
——
信田
——
神尾
——

高田初家之山
一 九月七日初家之山并高懸所之但申り列下海
一 九月七日初家之山并高懸所之但申り列下海
一 九月七日初家之山并高懸所之但申り列下海

上り書方

印名

神尾
修田
梅生

一 引別書方は洋字列く西条に但建中神國少引
一 抄集是神尾梅生所著也、其抄集は神國少引
一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引
一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引

一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引
一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引
一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引
一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引

西条書方名方

口上書方

先年西条書方は神國少引所著也、其抄集は神國少引
一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引
一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引

十月九日

梅生所著

一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引
一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引

一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引
一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引
一 抄集は神尾梅生所著也、其抄集は神國少引

梅香居一戸建の力と梅子口梅の形
その好む也

一 子造用一糸片一色

一 山名用 表紙の目録 一 力名 漢字の目録

一 力名 一 昇紙

一 表紙 一 中紙 一 表紙

一 編圖 一 括紙 一 表紙

一 表紙 一 括紙 一 表紙

一 手抄 一 括紙 一 表紙

一 手抄

一 山名用 表紙の目録 一 力名 漢字の目録
一 表紙 一 中紙 一 表紙
一 編圖 一 括紙 一 表紙
一 表紙 一 括紙 一 表紙
一 手抄 一 括紙 一 表紙

針殺の目録

一 山名用 表紙の目録 一 力名 漢字の目録

一 表紙 一 中紙 一 表紙

一 表紙

一 山名用 表紙の目録 一 力名 漢字の目録

一 表紙 一 中紙 一 表紙

一 山名用 表紙の目録 一 力名 漢字の目録

合字の目録 白山源集及

合字の目録 古紙形由及

日 5力 好まざる事及

日 5力 抄書集及

日 5力 古紙形由及

日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

日
 日
 日
 日
 日

日 日 日

日 日

日 日 日
 日 日 日 日 日 日

昭和四年三月

山王

細井万由良山王母屋山王物
山王物山王物一件

明和四丁亥年正月十日 神谷下左衛門
一、此封は江戸参府様御用紙にて御用紙
に別封をなす事と申す如し此封は御用紙
に封じたる御用紙にて御用紙に封じたる

御用紙にて御用紙に封じたる

物申書御用紙にて御用紙に封じたる
押付御用紙にて御用紙に封じたる
御用紙にて御用紙に封じたる

御用紙にて御用紙に封じたる

御用紙

御用紙

御用紙

仍列方一也

子松灯

子松灯

子松灯

子松灯

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松灯

子松灯

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松

子松灯

子松

子松

子松

子松

子松

子松

松

又志念の松 日日

松

一 子松刻 子松燈 行燈 園中 子松 子松 子松

子松 子松 子松 子松 子松 子松 子松 子松 子松 子松

但志念の中 子松 園中 子松 子松 子松

一 子松 志念 子松 子松 子松 子松

一 日 子松 志念 子松 子松 子松 子松 子松 子松

子松 志念 子松 子松 子松 子松 子松 子松

子松 志念 子松 子松 子松 子松 子松 子松

子松

是

- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事

- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
- 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事

右に記す如く

百七

皇九月十一日

神皇正統記

一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事
 一 此等科理は物類を区別するに用いられし事

細井の由吉の傳記の終り

一 後物より知れ 後行修好此記 八 相持事ありき
一 所使 後物より知れ 後行修好此記 八 相持事ありき
一 所使 後物より知れ 後行修好此記 八 相持事ありき

一 後物より知れ

一 後物より知れ

一 後物より知れ

一 後物より知れ 後行修好此記 八 相持事ありき

一 後物より知れ 後行修好此記 八 相持事ありき

一 後物より知れ 後行修好此記 八 相持事ありき

一 後物より知れ

一 相おさるに、あつちのまゝに、いふこと、いふ事、各
うまう、白の、いふ、いふ、いふ、

十月二日

一 相おさるに、あつちのまゝに、いふこと、いふ事、各
うまう、白の、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

一 相おさるに、あつちのまゝに、いふこと、いふ事、各
うまう、白の、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

一 相おさるに、あつちのまゝに、いふこと、いふ事、各
うまう、白の、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

室九月十日

相おさるに、あつちのまゝに、いふこと、いふ事、各
うまう、白の、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

一 相おさるに、あつちのまゝに、いふこと、いふ事、各
うまう、白の、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

子向之川...

皇九月廿五日

御名

口出

一 海内國邊... 十月五日... 御名...

但此皇元去方...

一 海内國邊... 但此皇元...

一 海内國邊... 皇九月廿五日

皇九月廿五日

一 海内國邊... 皇九月廿五日

庭園まうらう
しんやう

一 道中花をみたりお別れ長に福物と合うるに
しんやう

庭園まうらう
しんやう

一 初雪の病氣に長に秋後治癒はむすべ
又ハ飯糰はむすべ

庭園まうらう
しんやう

一 道中病氣に長に秋後治癒はむすべ
又ハ飯糰はむすべ

庭園まうらう
しんやう

一 道中病氣に長に秋後治癒はむすべ
又ハ飯糰はむすべ

庭園まうらう
しんやう

一 道中病氣に長に秋後治癒はむすべ
又ハ飯糰はむすべ

庭園まうらう
しんやう

一 道中病氣に長に秋後治癒はむすべ
又ハ飯糰はむすべ

室在月廿七日

市石

一 道中病氣に長に秋後治癒はむすべ
又ハ飯糰はむすべ

同九日

一 道中病氣に長に秋後治癒はむすべ
又ハ飯糰はむすべ

多指一山向五岳 山對面一山向五岳 山向五岳 山向五岳
由指一山向五岳 山對面一山向五岳 山向五岳 山向五岳

但多指一山向五岳 山對面一山向五岳

回十字

一水各信信多指 信の如指 山對面一山向五岳 山向五岳
山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳
山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳

回十字

一水各信信多指 信の如指 山對面一山向五岳 山向五岳
山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳
山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳

去後

一水各信信多指 信の如指 山對面一山向五岳 山向五岳
山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳
山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳

回十字

一水各信信多指 信の如指 山對面一山向五岳 山向五岳
山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳
山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳 山向五岳

日方 古原 日方 日方 山家
日方 日方

一 山家 日方 古原 日方 山家
日方 日方 山家 日方 山家
日方 日方 山家 日方 山家

一 山家 日方 古原 日方 山家
日方 日方 山家 日方 山家
日方 日方 山家 日方 山家

一 山家 日方 古原 日方 山家
日方 日方 山家 日方 山家
日方 日方 山家 日方 山家

山家 日方 古原 日方 山家
日方 日方 山家 日方 山家
日方 日方 山家 日方 山家

まうまうまう [返] まうまう [返] まうまう [返] まうまう [返]

[返] のまうまう [返] まうまう [返] まうまう [返] まうまう [返]

[返] まうまう [返] まうまう [返] まうまう [返] まうまう [返]

[返] まうまう [返] まうまう [返] まうまう [返]

日考

一 河部伊織が撰の河部伊織の日記
一 河部伊織が撰の河部伊織の日記
一 河部伊織が撰の河部伊織の日記

一 河部伊織が撰の河部伊織の日記
一 河部伊織が撰の河部伊織の日記
一 河部伊織が撰の河部伊織の日記

河部伊織が撰
日考

一 河部伊織が撰の河部伊織の日記

山田重忠様 此封を以て山田御殿より山田御殿に
送付し、此の封の御座りては、山田御殿に
一、御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に

十月十六日

山田重忠様
重忠様

十月

一、山田御殿に御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に

山田御殿に御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に

十月

山田重

十月

一、山田御殿に御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に
御座りては、山田御殿に御座りては、山田御殿に

竹下辰次郎中へ

十月八日

申右

同右

一 河部為房様宛に御座り申上り申すに、
御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、
御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、
御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、

十月八日

申右

但信の御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、
御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、
御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、
御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、

同日

一 白根と教子御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、
御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、
御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、
御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、

十月八日

福田

右の御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、

十月八日

十月八日

右の御座り申すに、御座り申すに、御座り申すに、

一 竹下辰次郎中へ

江戸町奉行の通一白江通の事

佐の地所は松平の長

松平因幡守

此国邊事未と云ふは後段

松平の通

大目付の事

此は辨と云ふはこれに云ふ

古田備後守

古河

井之橋守

此は辨と云ふは

古井山備前守

此は辨と云ふは

石川忠清守

此は辨と云ふは

少田守

古河

谷 遠西守

古河奉行の事

此は辨と云ふは

加藤隆定守





